| | |
|---|---|
| 【報告者】　工藤　麻貴子 | |
| 【学年】　４年 | 【日にち】　１１月２１日 |
| 【教科・単元名】　社会科　「水はどこから」１／８時 | |

【実践】

（学習の流れ）

○　4月の断水を振り返り、水道が使えなくて困った経験について話し合う。

「おふろに入れなかった。」「ご飯も作れなかった。」「トイレも使えなかったよ。」

「水道が使えないととても不便だった。」

一日にどれくらいの量の水を使っているのだろう？

○　手洗い洗顔を実際に行い、水の使用量を調べる。（水を出したままで・水を止めて）

「結構使っているな」「他のことはどれくらいだろう」

○　水の使用量について、パワーポイントを使い、クイズ形式で考えていく。

「こんなにたくさんの水を使っているんだ。」

○　一人一日あたりどれくらいの量の水を使っているのか計算してみよう。

（工夫点）

・　断水の経験から話し合いを始め、水が自分たちの生活に深く関わっていることを実感して学習に入れるようにする。

・　水の使用量についてクイズ形式で考えていくことで、全員が意欲的に学習に参加できるようにする。

・　パワーポイントでクイズ画面を写し出し関心を高めるとともに､水の量を２リットルペットボトル何本分かで図示し、水の量がとらえられるようにする。

【反省】

（良かった点）

・　クイズは予想以上に盛り上がり、楽しんで取り組んでいた。答えを予想した後、全員にどの選択肢を選んだか手を挙げさせたので、全員が水の使用量について考えながら取り組んだ。

・　正解画面でたくさんのペットボトルが図示されると、「おおっ」という声が上がり、水の量の多さを実感できたようだった。

（反省点）

・　クイズには楽しんで意欲的に取り組めたが、正解か不正解かに関心が向いてしまい、水の使用量の多さについてまで十分に考えが及んでいない児童もいた。しかし一日のおよその使用量を計算で求めると、各々、「多いな。」とか「自分は結構節約できているな。」などと自分と水との関係を見直すことができた。